

令和元年度 佐賀県立小城高等学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育方針 ○本校の校訓である「創意Originality」「挑戦Challenge」「誠実Integrity」を実践する。 ○「文武一途」を奨励し、総合力としての「生きる力」を育成する。 ○国の教育方針や教育改革の流れに敏感に反応し、進んで「教育イノベーション」に取り組み、学校教育目標 ○明るく活気に満ちた教育活動の推進、知・徳・体の調和のとれた健全な人材の育成、教職員と生徒の相互の敬愛と信頼関係の構築を教育目標とする。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①「確かな学力」の育成 ○資質・能力の3つの柱である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の育成 ○基礎的・基本的な知識・技能（基礎学力）の定着 ○個に応じた受験学力の育成 ②豊かな人間性の育成 ○(情報)モラル教育の推進 ○「いじめ」の防止対策の推進 ○ボランティア精神の涵養 ○人権・同和教育の充実 ③「健康・体力」の育成 ○部活動の活性化 ○健康の自己管理能力の育成</p>
--	---

3 目標・評価

① 授業力の向上により、生徒の進路意識を高揚させ、主体的な学習習慣の形成と学力の向上を図り、個に応じた進路保障を実現する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業研究会(公開授業・合評会)を実施し、授業の質を向上させる。 定期考査や模擬試験の結果を分析し、生徒の学力の現状把握を行い、進捗実績を向上させる。 「オンライン活動」の一環としての「総合的な探究の時間」で課題研究の指導力向上を図る。 教育改革について関心を抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に年間の授業研究計画を作成し、公開授業・合評会を100%実施する。 試験結果の分析を通して、生徒の現状を踏まえた授業内容や学習活動の指示を行う。 高大連携改革及び新学習指導要領について概念を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者、実施日等を全職員に周知徹底し、授業参観を行う。また、合評会の実施を促す。 課題研究の指導について職員研修会を実施し、指導方法に関する情報や知識の提供をする。 AL(主体的・対話的で深い学び)の視座に立った授業改善に取り組む。 大学入試改革に沿った進路指導を行う。
			<ul style="list-style-type: none"> 年間皆勤の生徒を100名以上にさせる。 学習PDCAサイクルの基礎を定着させる。 図書館貸出し冊数を年間平均5冊以上にする。 課題を持って文理選択ができる生徒を9割以上にさせる。 ボランティア活動など校外活動に積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談や日々の記録等を通して、生活リズムの確立を図り、学習の習慣を定着させる。 難関大学合格者の体験談や学習方法を提示し、参考させる。 図書館と協力するとともに、授業やHRで利用し、本の紹介をする。 課題研究において情報を収集を行い、自己理解を深め、興味・関心の方向性を決定させる。
	○学年経営	<ul style="list-style-type: none"> 1学年の目標を達成する。 2学年の目標を達成する。 3学年の目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間皆勤の生徒を120名以上にさせる。 進路目標を具体的に示せる生徒を9割以上にさせる。 「オンライン」課題探究発表後、課題探究・キャリア甲子園への取り組みが「できた」と評価する生徒を9割以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談や日々の記録等を通して、生活習慣の再確認をさせ、最上級生としての自覚を持たせるとともに、社会人としての基礎基本の指導を行う。 授業重視、課題提出の徹底、成績の徹底分析、学力層に応じた指導の工夫など進路目標に応じた学力の強化を図り、進路目標の実現を達成する。 探究活動を通して、情報を収集・編集する力や協働し、発信する力などを身につけさせる。
			<ul style="list-style-type: none"> 年間皆勤の生徒を120名以上にさせる。 各自の進路目標の実現に向けた進路指導と教科指導を行い、国立大学合格者を80名以上、うち難関大学合格者を5名以上、AO、推薦入試合格者を30名以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談や日々の記録の記載を通して基本的な生活習慣の再確認をさせ、最上級生としての自覚を持たせるとともに、社会人としての基礎基本の指導を行う。 授業重視、課題提出の徹底、成績の徹底分析、学力層に応じた指導の工夫など進路目標に応じた学力の強化を図り、進路目標の実現を達成する。 探究活動との連携を図り、小論文指導や面接指導などを通して、個に応じた進路指導を行っている。
教育活動	●志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土小城や佐賀の魅力について学ぶ活動や講演会を実施し、アンケート等で郷土に愛着や誇りを持っている生徒80%以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒参加の伝統の天山登山を実施し、郷土の自然に親しみや雄大さ、大切さを学び、愛着を深める。 「キャリア教育講演会」や「さがを誇りに思う講演会」を実施し、佐賀から、世界へ事業を展開されている企業等の代表者から話を聴き、地元小城や佐賀の魅力を深める。
			<ul style="list-style-type: none"> 「予習・復習・課題提出」に関する指導を徹底する。 現役の国立大学合格者80名以上、難関4年制大学合格者5名以上、AO、推薦入試合格者30名以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に1回以上の進路検討会、教科担当者連絡会を実施し、ホームルーム担任、教科担任が生徒一人一人の進路実現に必要な指導内容を共有する。 学習時間調査を定期的に行い、主体的な学習習慣の確立を図る。 各種講演会を実施し、生徒の学習意欲を高める。 具体的な短期目標を設定させ、進路目標を達成させる。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 研修や授業研究などを通してICT機器を活用する技術・能力を向上させる。 生徒の授業評価「B」以上の率を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内でのICT活用研修など全職員が参加する。 教員全員が電子黒板、学習用PCなどのICT機器を利用した授業実践ができるよう、指導法の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や授業研究会等を通して教科内、教科外のICT機器利用方法を学び、その活用を図る。 Classやスタディサプリなどを効率的に利用し、生徒の学習用PCの利用時間の増加を目指す。
			<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」により生徒の読書習慣の定着をはかる。 図書館の本の貸出し冊数を増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書力、理解力等の育成のために、朝の10分間読書を推進し、新聞等を利用して社会性を高める取り組みを行う。 図書館の貸出し冊数を一人当たり60冊以上を目指す。
○読書の奨励	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」により生徒の読書習慣の定着をはかる。 図書館の本の貸出し冊数を増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書力、理解力等の育成のために、朝の10分間読書を推進し、新聞等を利用して社会性を高める取り組みを行う。 図書館の貸出し冊数を一人当たり60冊以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が利用しやすい図書館作りを推進し、「図書館だより」等積極的に広報活動を行っていく。 「朝の10分間読書」のあり方について、各分掌・学年・教科と連携して内容の充実・改善を図る。 	

② 部活動や地域への社会貢献活動に積極的に挑戦し、マナーを身に付け、ルールを遵守する態度を養い、責任ある行動がとれる習慣をつける。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○部活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率の向上を目指す。 「文武一途」の則った部活動の運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率が90%以上となるように入部推奨を図る。 日々の活動において、勉学の両立の重要性を認識し、質の高い練習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介や紹介物等を有効に活用し、新入生に対して各部の魅力や魅力を伝え、加入を促す。また、2・3年生に対しても、部活動未加入者への部活動加入を促す。 部活動と学習が両立できるように19時完全下校を徹底させる。
			<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な学校環境を維持整備する。 災害に適切かつ臨機に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内施設が起因によるけがを0にする。 災害(火災・地震等)時どのように対処し避難すればよいか理解し実践する。
	○地域・社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に年間3回以上参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加することによって、奉仕の心を養い、人のために働くことの意義の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動に、生徒会役員が中心になって、個人、部活動単位で参加できるよう、日程等を早めに生徒会より発信する。

③ 授業・学校行事等への積極的参加により、心身のバランスのとれた発達を促し、問題解決への意欲・態度・能力を育み、豊かな人間関係を築く。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の成果を生かした進路を実現する。 キャリア・カウンセリングの視点に立った対話を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育生徒アンケートで、課題研究が「役に立った」、「ある程度役に立った」を合わせて、9割以上とする。 キャリアデザインチェックシートの各項目の点数を20点以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年対象にキャリア教育講演会、1年生対象にキャリア教育特別講演会を実施する。 「総合的な探究の時間」で、1・2年生では課題探究活動、3年生では自己探究活動を実施し希望進路の実現につなげる。 日常的な教育活動において、キャリア・カウンセリングの視点に立った対話を実現し、事例を収集する。
			<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の得意分野を伸ばし、不得意分野を互いに補いながら、共に認め合い支え合う集団を作る。 不登校生徒を減らす。 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻欠席早退を減らす。 自己理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の能力を最大限に伸ばす事を目標に、必要に応じて指導計画を作成し、支援を行う。また、各学期毎に支援の評価及び計画の修正を行う。 学校生活に困難を抱えている生徒に対しては、本人及び保護者の意向をふまえて、関係専門機関との連携を図りながら、支援会議を行うなどチームでの支援を行う。 悩みや困難を抱える生徒または保護者にはSOや外部機関等を紹介して、専門家のアドバイスを参考にできるようにする。
	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が規範意識を持って学校生活を送ることができる。 健全な心の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめを指す。 いじめはやらない、許さないという意識を持ち、いじめのない社会の創設を目指す姿勢を養うことができる。 いじめの早期発見を行い、適切に対応できる。 情報モラルの確立を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの実施と相談しやすい体制の確立によって、より正確な実態の把握に努める。 全校集会、学年集会やLHRなどで、いじめは許されない行為であることを繰り返し訴え、生徒に自覚を促す。 生徒の状況に応じて、個人面談等を積極的に行う。 年度当初に情報モラル講演会を行う。常時、全校集会、学年集会やHRでSNSの危険性を訴える。
			<ul style="list-style-type: none"> 保健室利用回数を1人あたり2回までに納める。(県平均2.5回) 治療率を25%にする。(平成30年度は17%) 17年皆勤賞を全体の50%以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室利用や保健だより(年6回)を通して、健康に関する知識や理解を深める。 保護者にも協力を仰ぎ、規則正しい生活習慣の確立や、治療率の向上に努める。

④ 地域社会と連携協働し、開かれた明るい学校、信頼される学校をつくる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> 教育方針(校訓)、教育目標、重点目標(経営ビジョン)の周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の教育目標・重点目標および教育活動についての周知を図る。 PTA総会の内容の充実を図り、参加者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会、学校ホームページやメール配信等を通して、機会あるごとに周知する。
			<ul style="list-style-type: none"> 地域に信頼される学校づくりを行う。 学校行事や教育活動の広報活動を行う。 体験入学及び学校説明会の充実を図る。 PTA総会や、PTA関連行事への保護者の参加率を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や公開授業など1年間の行事の中で1回でも参加した保護者の数を60%以上にさせる。 体験入学参加者数を増加させる方策を実践する。 PTA総会の保護者参加率を50%以上にさせる。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年次次期の積極的な取得推進を図る。 教職員の勤務実態を正確に把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国が推進する「働き方改革」の周知・徹底を図る。 教職員の健康保持・増進のために、労働環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や朝礼等を活用し、「働き方改革」の周知を徹底することにより、教職員の意識の高揚を図る。 毎月の衛生委員会や業務記録表、また部活動計画により教職員の勤務実態を把握し、業務内容の効率化による勤務の適正化を図る。 毎週1日以上の定時退勤推進日を設定し、長時間労働の是正に取り組む。 休休日の出張に対しては、振替休日の取得を推奨する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目